



アジア健康構想

2024年11月12日開催「Viet Nam – Japan Population Aging and Nutrition Seminar(日越における高齢化・栄養課題に関するセミナー)」開催概要

内閣官房 健康・医療戦略室
2025年2月

イベント概要

開催概要

目的：昨年度のフォローアップ、第1回日越JCMでベトナム側から要望があった高齢化と栄養に関する知見の共有、高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップの合意
主催：内閣官房 健康・医療戦略室 共催：ハノイ医科大学病院
日時：2024年11月12日（火）8：30-12:00
場所：ハノイ医科大学病院

結果

現地参加者174人（うち、ベトナム人151人、日本人23人）
オンライン参加者89人



セミナー会場の様子

プログラム

8:35-8:45	【開会挨拶】 鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使 ※ビデオメッセージ 伊藤 直樹 在ベトナム日本国大使 Nguyen Lan Hieu ハノイ医科大学病院 院長
8:45-8:55	【ハノイ医科大学病院と日本政府の間での高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップについて】 片岡 真理華 内閣官房 健康・医療戦略室 参事官補佐
8:55-9:05	【フォトセッション：ロードマップの手交、全体写真】
9:05-9:35	【ベトナムにおける人口高齢化と栄養：課題とニーズについて】 Tran Viet Luc ベトナム老年病院 副院長 Nguyen Thuy Linh ハノイ医科大学病院 栄養科長
9:35-9:50	休憩
9:50-11:00	【日本企業 8 社からのプレゼン】
11:00-11:15	【ベトナム政府の栄養に関する戦略と取組について】 Nghiem Nguyet Thu ベトナム国立栄養研究所 臨床栄養科長
11:15-11:55	【人口高齢化と栄養関連の課題に対応に関する日本の経験について】 肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長 五味 郁子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科教授
11:55-12:00	【閉会挨拶】 Ho Thi Kim Thanh ハノイ医科大学副学長

オープニング・ロードマップ

鈴木大使ご挨拶



- ・ ハノイ医科大学病院と日本政府の間で高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップを合意する予定であり、これを機に日越間での両分野における連携を更に促進していく。
- ・ 日本は国際保健課題への対応を進めてきており、「トリプルI」等の新しい取組も行ってきた。国際保健分野での民間投資を促進していく。
- ・ 高齢化や栄養に関する課題解決に積極的な日本企業の参加を歓迎し、その技術や製品がハノイの課題解決に役立つことを期待。
- ・ 本セミナーが日越の協力をより一層加速させ、保健課題解決と相互理解・友好の発展につながることを祈念。

伊藤大使ご挨拶



- ・ 昨年(2023年)11月の第1回日越ヘルスケア合同委員会をきっかけに、高齢化と栄養に関する協力の話が進展した。本日のセミナーで日本政府とハノイ医科大学病院が高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップに合意できることを光栄に思う。
- ・ 本日のセミナーに登壇する日本企業は世界トップレベルの技術力を有しており、既にベトナムで活動している。本セミナーが、参加者の皆様にとって、これらの日本企業の高品質な製品・サービスを知ってもらう機会となるとともに、日越の医療協力を加速させる機会となることを期待。

Hieu院長ご挨拶



- ・ 本セミナーは、ハノイ医科大学病院と日本政府の協力の進展を象徴するもの。日本は豊富な高齢化対策の経験を持ち、ベトナムとしてもその知見を学び取り入れたい。
- ・ 高齢化対策は短期的ではなく長期的な取組が必要。本日のプレゼンで紹介されるロードマップに基づき、日本との連携を深めていきたい。
- ・ 高齢者栄養の課題はベトナムでは新しいテーマであり、治療の一環として栄養を取り入れる取組も始まったばかり。デジタル技術の導入も視野に入れ、改善を図りたい。

協力ロードマップに関するプレゼンテーション（内閣官房 片岡補佐）



- ・ 本ロードマップは、2019年の日越間での協力覚書に基づいた、日本政府とハノイ医科大学病院との間での「高齢化と栄養」に関する協力の具体的な方針を示したもの。
- ・ ベトナムの高齢化率は2050年頃には約21%に達し、超高齢社会を迎える見込み。労働力不足への備え、介護人材の計画的確保、医療・介護費の増加に伴う財源確保などが必要。
- ・ 栄養分野では、ベトナムでは栄養不足と過体重問題の両方が課題であり、国家レベルでの栄養対策が必要。
- ・ 本ロードマップを通じた、日本の知見とソリューションを活かした高齢化と栄養分野の課題解決に向けた連携に期待。

フォトセッション、ベトナム側有識者

フォトセッション



伊藤大使からハノイ医科大学病院ヒュウ院長へ協力ロードマップの手交



有識者、登壇企業等を含めた集合写真

Luc副院長

Dr. Tran Viet Luc
ベトナム国立老年病院副院長



- ベトナムは急速に高齢化が進行。高齢者の多くが複数の慢性疾患を抱えている。また、農村部では医療や介護の環境がさらに深刻で、独居高齢者の増加や収入の不足が問題。
- ベトナムは他国の事例を参考に、法律や制度を実現可能な形で導入し、高齢者ケアの基盤を強化する必要。

Linh先生

Dr. Nguyen Thuy Linh
ハノイ医科大学病院 栄養科長



- ベトナムでは急速な高齢化により、栄養失調や脱水症状が広がり、医療費の増加が懸念。嚥下障害やサルコペニアなどの課題に関する研究や、食物繊維豊富な食品の提供や嚥下障害患者向けの対応が進められている。
- ハノイ医科大学では食事の安全性や患者ニーズへの対応に注力し、食事管理を改善している。今後、日本との協力を通じて栄養士の育成、食品品質検査、栄養トレーニングの強化を図りたい。

日本企業の登壇

インフィック株式会社

- 見守りセンサー「LASHIC」等を紹介。ベトナムでも日本の知見を活かし、IoTを活用した介護技術や人材育成を進める。



メドリング株式会社

- 電子カルテ「MEDi」、医療人材に特化した人材サービス、インドネシアでPOC実施中の医療MaaSにて紹介。



IMSグループ

- 医療支援や物資支援を中心に活動。アイフーズ社において調理済み食品を配送。嚥下機能低下に対応した食事を提供。



株式会社ユカシカド（オンライン）

- ハノイ医科大学の客員教授の方も技術顧問を務める。昨年はタンザニアから若い研究者を受け入れ、独自ソリューションにより19種類の栄養素を分析可能。



栄研化学株式会社

- 便潜血検査装置OC-SENSORの紹介。昨年のハノイ医科大学でのワークショップを経て、新たな検診センター立ち上げを支援中。



Lea Bio株式会社

- 医療画像診断支援AI「EIRL」と創薬支援AIを開発。AI技術で医療診断を支援し、ベトナムのヘルスケア改善に貢献を目指す。



コニカミノルタ株式会社

- DDR（X線動態解析技術）の紹介。スクリーニングに活用することで、患者の負担軽減や業務効率化が期待。ベトナムでも技術を普及させ、高齢化医療課題の解決に貢献。



エルピクセル株式会社

- 事前問診サービスMEQUYを21の医療機関で展開。昨年からは大学との連携を強化し、AIに関する情報収集を行い、栄養士や助産師へのサービス拡充を計画。



日越有識者、クロージング

Thu先生



Dr. Nghiem Nguyet Thu
ベトナム国立栄養研究所臨床栄養課長

- ICOPEガイドラインでは、スクリーニングや栄養指導、医療施設での栄養管理体制の整備が求められている。
- ベトナムでは高齢者の栄養問題（肥満、栄養失調、ビタミン不足）が深刻で、国会は2009年に高齢者法を承認し、食事確保を基本的ニーズとして記載。
- 国家栄養戦略では省庁間連携や人材育成、栄養指導の推進が進められている。

Thanh先生ご挨拶

- 有識者、日本企業 8 社のプレゼンを聞いて、いますぐアクションを取らなければならないことに気づかされた。
- ベトナムは日本の1983年と同じであり、制度の重要性について共有していただいた。体力と栄養は発展において重要な役割を果たすため、早く対策することが必要。
- 本日、専門家の皆様から貴重な話を聞かせていただき、今後 1 年で良い結果を達成できることを期待している。日本側の経験の共有とベトナム国内の共有をすることによって、来年はより良い内容を共有できればと考えている。

肥後先生



肥後 裕輝
九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長

- 高齢化の主な要因は寿命の延長と出生数の減少で、今後ベトナムも高齢化の進行に直面。
- 日本では高齢者の単身世帯が増加しており、子どものいない高齢者が増えたため、社会全体で支える体制への移行が求められた。
- 日本では介護ロボットの推進と地域包括ケアシステムの構築などの取組が進められている。

五味先生（オンライン）



五味 郁子
神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部栄養学科 教授

- 日本の入院患者の多くが高齢者で、誤嚥性肺炎や心疾患、骨折が主な疾病。
- 毎年「国民健康・栄養調査」を実施し、食事の摂取状況を把握。
- 特に病院では栄養管理が重視され、嚥下障害や低栄養患者への対応が重要。
- ベトナムでのNCDsと高齢化に対処するため、日本の病院給食や栄養管理の制度を参考にし、特に嚥下障害の管理と医療・介護の連携が重要。

